

第12回伊那新校再編実施計画懇話会

日時：令和4年7月6日（水）
18時～19時30分
会場：伊那合同庁舎 講堂（5階）

<次第>

1 開 会

2 挨拶

3 座長選出

4 会議事項

- (1) 第11回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 高校生からの意見について
- (3) NSDプロジェクトについて
- (4) 校名検討について
 - ① 第一期高校再編時の校名選考について
 - ② 伊那新校 校名選考の進め方について
- (5) 意見交換
- (6) その他

5 その他

- 次回伊那新校再編実施計画懇話会（開催日時等は、改めて連絡）

6 閉 会

令和4年度 伊那新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○印 令和4年7月からの構成員

| 区分 | 氏名 | 所属等 |
|------------|---------------|--------------------------|
| 自治体 | ○伊藤 徹 | 伊那市 副市長 |
| | ○片桐 健 | 飯島町教育委員会 教育長 |
| | 本多 俊夫 | 駒ヶ根市教育委員会 教育長 |
| | 田中 章 | 上伊那広域連合 前事務局長 |
| 産業界 | 田畑 和輝 | 伊那商工会議所 監事 |
| | 春日 俊也 | 駒ヶ根商工会議所 副会頭 |
| | 黒河内 貴 | 株式会社仙醸 代表取締役社長 |
| 学識 経験者 | 福田 正樹 | 信州大学農学部 教授 |
| | 高橋 百合子 | 長野県看護大学 小児看護学講師 |
| 地域 | 河野 宏 | 一般社団法人上伊那医師会 長野県学校医委員会委員 |
| | 中山 佳代 | 元上伊那地域の高校の将来像を考える協議会 委員 |
| | 竹村 浩一郎 | 上伊那地域振興局 局長 |
| 同窓会 | 山田 益 | 伊那北高等学校同窓会 運営委員会委員長 |
| | 下島 典子 | 伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会 会長 |
| P T A | ○春日 知也 | 伊那北高等学校 P T A 会長 |
| | ○増田 庸江 | 伊那弥生ヶ丘高等学校 P T A 副会長 |
| | ○城村 義人 | 上伊那 P T A 連合会 会長 |
| 学校 関係者 | ○高嶋 義人 | 上伊那小学校長会 会長（駒ヶ根市立赤穂小学校長） |
| | ○有賀 稔 | 上伊那中学校長会 会長（伊那市立伊那中学校長） |
| 統合校 関係者 | 宮内 華 | 伊那北高等学校 生徒代表 |
| | 春日 碧依 | 伊那北高等学校 生徒代表 |
| | 唐澤 利海 | 伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表 |
| | 杉本 穂波 | 伊那弥生ヶ丘高等学校 生徒代表 |
| | 埋橋 浩 | 伊那北高等学校 校長 |
| | ○山岡 久俊 | 伊那北高等学校 教諭 |
| | 松村 明 | 伊那弥生ヶ丘高等学校 校長 |
| 唐澤 功 | 伊那弥生ヶ丘高等学校 教諭 | |

事務局

| 伊那北高等学校 | | 伊那弥生ヶ丘高等学校 | | 高校再編推進室 | |
|---------|-----------|------------|------------|---------|--------------------|
| ○倉澤 克弥 | (教頭)・事務局長 | ○佐々木俊秀 | (教頭)・副事務局長 | 山岸 明 | 主幹指導主事 |
| 山岡 久俊 | | 唐澤 功 | | 田中 聡 | 主任指導主事 (伊那新校担当) |
| 倉石 典広 | | 春日 雅博 | | | |
| ○桐生 祐治 | | ○竹松ゆかり | | | |
| 齋藤 仁美 | | 原 拓也 | | | |

第 11 回伊那新校再編実施計画懇話会まとめ

| | | | |
|-------------|---|--------------------------------|-----------|
| 日時 | 令和4年(2022年)3月28日(月) 18時00分～19時00分 | | |
| 方法 | Zoomを用いたオンライン会議 | | |
| 出席 | 懇話会構成員24名 | | |
| 欠席 | 田畑和輝、林 裕二、春日碧依 | 傍聴者 | 傍聴8名、報道4社 |
| 事務局 | 伊那北高校 | 山岡教頭(事務局長)、大石教諭、倉石教諭、齋藤教諭、山崎教諭 | |
| | 伊那弥生ヶ丘高校 | 藤澤教頭(副事務局長)、唐澤教諭、濱田教諭、春日教諭、原教諭 | |
| | 県教育委員会 | 駒瀬室長、田中主任導主事、石井主事 | |
| 当日資料 | 第11回懇話会次第、第10回懇話会まとめ、 伊那新校(仮称)再編実施基本計画(2月7日 教育委員会定例会資料)、 伊那新校 議会同意後のスケジュール(予定)について 長野県スクールデザイン2020(一部抜粋) | | |

会議事項

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 1 報告 | (1) 第10回懇話会まとめ |
| 2 会議 | (1) 再編実施基本計画について (2) 今後のスケジュールについて |
| 3 連絡事項 | 次回開催日時等は、改めて連絡 |

意見交換

【事務局からの説明】

- ・2月7日県教育委員会定例会の資料説明(第10回懇話会からの修正点等)
- ・令和4年度の懇話会の内容とスケジュールの概要について
- ・「新校における学びと空間」をテーマとするシンポジウムの開催について
県立学校学習空間デザイン検討委員会の報告書に基づく校舎整備の概要について広報し、地域の新校への興味関心を高める。

【再編実施基本計画について】

- 既存の教育から脱却して、最先端の教育、建築を模索しながら、創りあげていくことに期待が持てる。
- 時代の変化が続いていく中で、デジタル化の環境変化への対応や、対面での活動が苦手な子どもたちなど多様な生徒への対応など、先のことを考えて、アップデートできる学校像にしていってほしい。
- これからが楽しみである。大人の意見だけでなく、これから通う子どもたちの意見も取り入れて、実際に通う子どもたちがワクワクする学校を創ってほしい。

【今後のスケジュールについて】

- プロポーザルについて、一定の予算の中でどんなアイデアを提案していただけるか、大いに興味がある。
- プロポーザルで業者の方から提案をいただいたことから、新しい発想が懇話会で共有される。また、いろいろな方の意見を聞くことで、懇話会の中に新しい風が吹き込まれる期待、基本計画の中でまだ抽象的である部分も具体化してくる期待がある。
- 地域連携協働室などは、限定的な使い方ではかえって使い勝手が悪くなるのではないかと。学校は、子どもたちとそのときにいる先生方が創っていくものだから、幅を持たせた空間をつくった方がよい。
- 企業や専門分野の方のアイデアや意見を聞きながら、いろいろな意見を吸い上げて進めていってほしい。
- 校舎整備について、他の学校や他の自治体で、どのように進めていったか、素晴らしいデザインの学校、新しい学校づくりが地域にどのような影響を与えたか、などの事例を示してもらえるとありがたい。

NSDプロジェクト kick off シンポジウム (6/5) 概要

県立長野図書館“信州・学び創造ラボ”、PV会場：小諸・伊那、YouTube同時配信

○テーマ 地域と共に進めるこれからの学校づくり

<基調講演>

「地域と共に進めるこれからの学校づくり」

講演者：赤松 佳珠子 氏

(法政大学デザイン工学部 教授/株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ 代表取締役)

<トークセッション>

ファシリテーター

小野田 泰明 氏 (東北大学 教授)

パネリスト

赤松 佳珠子 氏

高橋 純 氏 (東京学芸大学 教授)

阿部 守一 (長野県知事)

内堀 繁利 (長野県教育長)



NSDプロジェクト kick off シンポジウム (6/5) 概要

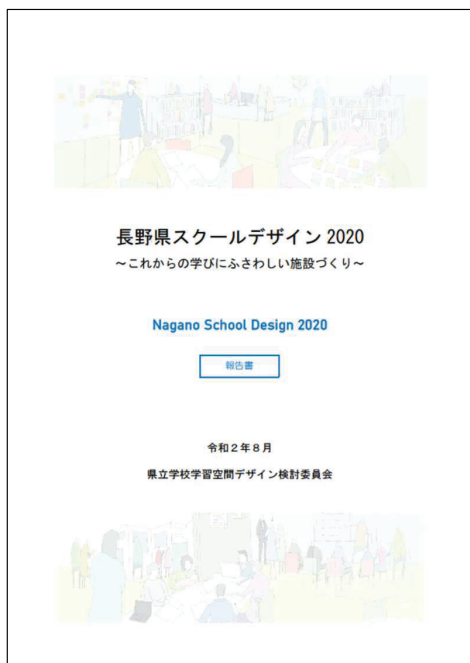
県立長野図書館“信州・学び創造ラボ”、PV会場：小諸・伊那、YouTube同時配信

○テーマ 地域と共に進めるこれからの学校づくり

<トークセッションから>

- 空間が変われば学びの発想が変わっていくといったわくわくするようなことが重要
- 用途の決まった強制力のある空間ではなく、**先生や生徒や地域の人が発見的に活動を広げていける空間を創っていくべき。**
- NSDプロジェクトも探究の一つ。**
- 新校の生徒は不安に思っている。不安を解消するためには、NSDの目標や情報を共有して、**生徒の声も聞いてほしい。**
- 一人一人の思いがなければ良い方向にいかない。**誰かに任せていて良いのできたねということは許されないため、一緒に参加していただきたい。**

NSDプロジェクトについて



平成30年8月
「県立学校学習空間デザイン検討委員会」

令和2年8月
最終報告書「長野県スクールデザイン2020」
～これからの学びにふさわしい施設づくり～

委員長
赤松 佳珠子 氏
(法政大学デザイン工学部 教授、
株式会社シーラカンズアンドアソシエイツ 代表取締役)

NSDプロジェクトについて

最終報告書「長野県スクールデザイン2020」（令和2年8月）

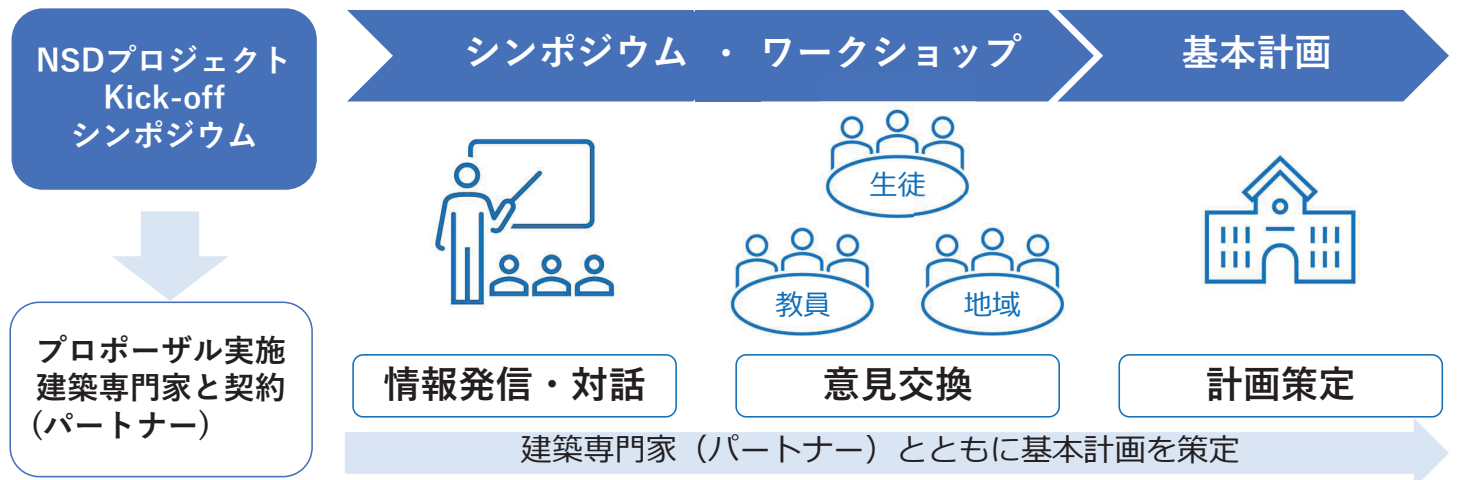
新たな学びの推進

学習環境整備

これからの時代や新しい学びにふさわしい学習環境の実装

施設整備のプロセス

生徒、教員、地域と意見交換を重ね、多様な意見を基本計画へ反映



基本計画の策定をともに進める**最適なパートナーを選ぶためのプロポーザル**に関する今後のスケジュール (予定)

プロポーザル公告 (7月末) ⇒ 審査 ⇒ パートナー決定 (11月中下旬)

NSDプロジェクトによる学校づくり改革

- 1 「プロセス」 生徒、教員、地域と意見交換を重ね、建築専門家とともに基本計画へ反映
- 2 「空間」 多様な生徒の学習ニーズに応じた柔軟で可変性のある空間で学びを支援
- 3 「共学共創」 「共学共創」を核として、地域と密接に連携し、学びを継続的に発展

これからの時代や新しい学びにふさわしい学習環境の実装を、学校 (生徒・教員)、地域とともに目指します

第1期高校再編時の校名選考について

高校再編推進室

【参考事例：須坂創成高校、佐久平総合技術高校、大町岳陽高校】

1 検討組織について

- 校名選考委員会（人数 14～17 人）を設置
- 検討委員会の構成
地域（義務教育関係・広域連合・有識者等）、同窓会、PTA、統合校（校長・教員）

2 選考方法について

- 校名案を公募し、校名選考委員会にて選考
- 二段階または三段階の選考ののち校名候補 1 案を決定
 - ・応募のあった校名案を事務局で整理（選考の観点に合わないもの、同名のもの等）したものを一次選考候補とする
 - ・一次選考結果に、検討委員の案を加えたものを二次選考候補とする（須坂創成）
- 選考の観点

| 須坂創成 | 佐久平総合技術 | 大町岳陽 |
|---|---|--|
| ①新校の理念である「地域に根ざし世界に羽ばたくことのできる実践力の育成」にふさわしい名称であること。 ②須高地域の総合技術高校として、地域の願いに応え、地域の人々に愛され親しまれる名称であること。 ③須坂商業高等学校と須坂園芸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎ、これから育てる生徒達に思いを馳せ、未来を見つめた名称であること。 | ① 3校の統合として分かりやすいこと。 ② 地域に根ざした学校名としてふさわしいこと。 ③ 新校に対する地域の願いや期待が表出されていること。 ④ 新校の特徴が表出されていること。 | ①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。 ② 地域に根ざした学校としてふさわしいこと。 ③ 新校に対する地域の願いや期待が表出されていること。 ④ 未来に向かって育っていく生徒にふさわしいものであること。 校名候補から除外する観点 ① 英文字を含むもの ② ひらがな、カタカナを含むもの ③ 著しく不適切なもの ④ 同名の施設等があるもの（ただし「大町育英」のように大町〇〇は残す） |

3 公募方法について

- ① 期間：1 か月
- ② 内容：新校名案と提案理由
- ③ 方法：応募資格の制限はなく、郵送、FAX、電子メール、統合校事務室への持参

4 その他

- 校名候補決定後、記者会見を開いて校名候補、選定理由について選考委員長が説明

伊那新校 校名選考の進め方について

令和4年7月6日
高校再編推進室

地域に愛される、新校にふさわしい校名を検討することと、新校に関する情報発信を円滑に行うため、早期に校名を決定する必要があることから、令和4～5年度の懇話会で校名候補を検討することとする。

1 検討組織について

「新校再編実施計画懇話会」にて検討する。

- ・過去の事例（須坂・佐久・大町）では「校名選考委員会」を設置していたが、委員構成が「懇話会」の構成員と同様であることから、「校名選考委員会」は設置しない方針である。

2 進め方について

選考方法等について新校準備委員会が検討し、懇話会で意見交換のうえ選考する。

